

IAATOバードウォッチングガイドライン

海岸の鳥を見るとき

ボートで海岸に接近する際、上陸地点または群居地付近で小型ボート¹を操縦することで、ペンギンなどの鳥を動揺させることがあります。

- 上陸地点や群居地付近では、ゆっくりと走行してできるだけ動揺させないようにします。
- スタッフ/船員は、最善の上陸地点を決定する必要があります。鳥の群れからできるだけ離れた場所が理想的です。これは、鳥が海岸付近で換羽している時に特に重要になります。
- 鳥が入りしりたり、水浴びしたりする場所や、群居地近くの摂食している水域では、ボートの操縦は避けてください。水中の鳥に注意してください。速度を落とすかコースを変えて衝突を避けてください。
- 小さなボートから崖や陸地にいる鳥を見るときは、ゆっくりとエリアに近づいて進み、離れます。



鳥までの推奨接近距離

- 巣作りをしている海鳥からは、少なくとも5メートル/15フィート離れます。
- 換羽中のペンギンの個体またはグループには特に注意してください。少なくとも5メートル/15フィート離れてください。
- 巣からは10メートル/30フィート以上、また、羽を広げているアホウドリからは25メートル/75フィート以上の距離を保ってください。
- 巣作り中のオオフルマカモメは、特に敏感になる傾向があると考えられます。少なくとも25メートル/75フィート離れてください。
- 鳥の行動に目に見える変化があったら、離れてください。

¹ このドキュメントでは、「小型のボート」をソディアック型の空気注入ボートとして定義し、複合または半複合のゴムボート、あるいは海岸での見学に使用される同様の小型上陸用の船を指します。

上陸したら

- ゆっくりと歩き、動きを止めて動物を見るよう見学者に勧めてください。群居地や海に出入りするための「通路」の妨げにならないようにしてください。
- 親鳥が巣に戻るのを妨げると、トウゾクカモメやカモメによる卵や雛の捕食が増加する可能性があります。さらに親鳥は、巣に戻るまでに人間を避けたり最短ルートから逸れたりすることで、貴重なエネルギーを消耗します。
- 草むらでは鳥が巣作りをしている可能性があるため注意してください。地面の下にある海鳥の巣穴は非常に脆いため、上を歩かないでください。
- トウゾクカモメ(イエーガー)またはアジサシが急降下を始めたら、子供あるいは巣を守っている可能性があります。カモメも敏感な傾向にあります。近づいてきた方向に向かって、後ろ向きに歩かずに引き返します。卵や幼鳥に気を付けてください。カモフラージュされていて、見えにくい場合があります。
- どのような場合も、鳥を惹きつける「撒き餌」(魚の内臓や油を置くこと)はしないでください。野生の鳥に決して餌を与えないでください。
- シーズン後半には、好奇心旺盛なひな鳥が人間に近づいてくる可能性があります。静かに観察を続け、積極的に交流しようとしたり、動き回るひな鳥の進路に立ったりしないでください。ひな鳥に触れてはいけません。



水上の鳥を見るとき

時には驚くほどの海鳥の群れを見ることができません。例えば、たくさんの鳥が水面で摂食したり、水中に飛び込んだり、休憩したり、水浴びしたりする様子を見られることがあります。これらの鳥の多くは、ひなにやる餌を探すために何百、何千マイルもの距離を飛んだり泳いだりしてきた可能性があります。

- 鳥たちの群れの端にとどまり、邪魔しないようにしてください。
- 船や小型船舶は少なくとも100メートル/300フィート離れた場所に留まってください。
- 小型ボートや手こぎボートは、少なくとも30メートル/90フィート離れている必要があります。

非常に稀に、ペンギンが海面から飛び出したり海に潜ったりして進む際に、小型ボートのデッキに乗り上げることがあります。

船上にいる人は、ペンギンが自分で水中に戻っていくのを静かに待ってください。通常、手助けする必要はありません。